

41350

教科書文庫

4
810
31-1913
20000 18173

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

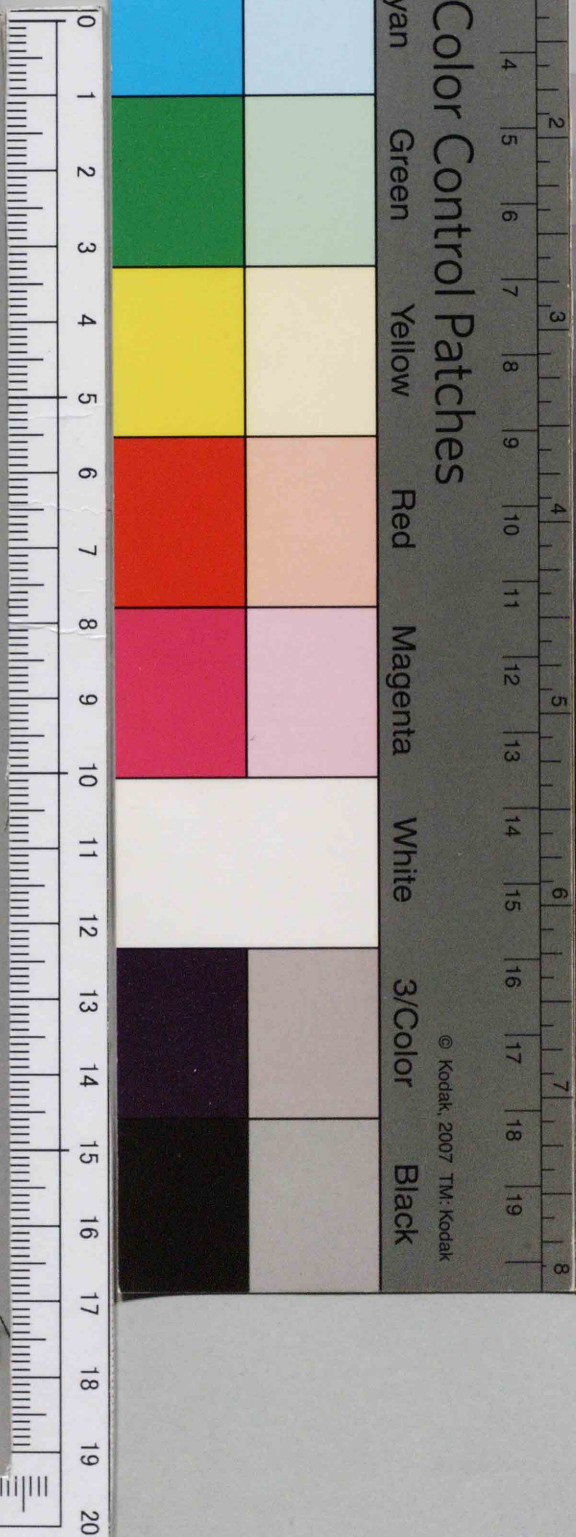


© Kodak, 2007 TM. Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM. Kodak



教科書文庫

4

810

31-1913

2000018173

尋常小學讀本卷十三

文部省



資料室

375.9  
Mo14

教科書文庫

4

810

31-1913

2000018173



尋常小學讀本 卷十三

文部省

広島大学図書

2000018173



目録

第一課	明治天皇の御製	一	第十五課	南滿洲鐵道	五十四
第二課	日本海海戰	四	第十六課	歐羅巴の三大都	五十九
第三課	造船ノ話	十一	第十七課	獸類の移住	六十五
第四課	天氣豫報及び暴風雨警報	十六	第十八課	苦樂	七十
第五課	動物と植物の關係	二十	第十九課	コロンブス	七十三
第六課	鎌倉	二十三	第二十課	辻音樂	八十一
第七課	鳥居勝街	二十六	第二十一課	烈士喜劍	八十五
第八課	日本の女子	三十	第二十二課	主婦の發	八十八
第九課	學校落成式	三十四	第二十三課	孔子と孟子	九十三
第十課	公事と私事	三十七	第二十四課	大國民の品格	九十七
第十一課	阿蘇山	三十九	第二十五課	自治の精神	百二
第十二課	我が國の農業	四十三	第二十六課	帝國議會	百五
第十三課	國産の歌	四十七	第二十七課	軍人に賜はりたる勅諭	百九
第十四課	貿易	五十	第二十八課	國民の至情	百十七



廣島大學圖書印

尋常小學讀本卷十二

第一課 明治天皇の御製

修  
 聖  
 教育勅語と戊申詔書とは我等が身を修め世に處するの道を示させ給へるものにして之を拜讀するもの誰か御聖徳の山よりも高く御仁愛の海よりも深きを仰ぎ奉らざらん。萬機の政をみそなはせし御かたはら折にふれてよみ出でさせ給ひし御製にも常に國家を思ひ臣民をあはれませ給ふ大御心の拜察せらるゝはかしこしともかしこき極みなり。いでや其の二三を申さ

ん。

神代より承けし寶をまもりにて、

治め來にけり、日の本つ國。

承けつぎし國の柱の動きなく

榮えゆく代を尚いのるかな。

古の書見る度ふみに思ふかな。

おのが治むる國は如何にと。

祖宗の大業を承けて、明治の聖世を開かせ給ひし御盛運故なきに非ず。我等臣民も亦祖先の遺風に従ひ、一致協同して、此の國家を護らざるべからず。

又忠勇なる我が臣民を深く信賴し給ひて、

國民は一つ心に守りけり、

遠つ御祖みおやの神の教を。

と仰せ給へり。

鍛ひたる劔の光いちじるく

世にあややかせ、我が軍人。

此の御製を拜讀しては何人も義勇の心にをどり立つなるべし。

國を思ふ道に二つはなかりけり、

軍のには立つも立たぬも。

文武道を異にすれども國に盡す誠は一なり。

波風の志づかなる日も船人は

かぢに心を許さざらん。

治に居て亂を忘れざるも此の心なり。學問を修むるにも事業に従ふにも常に此の心ありてぞ其の目的は達し得らるべき。

第二課 日本海海戦

露國が連敗の勢を回復せん爲本國に於ける海軍の幾んど全勢力を擧げて組織せる太平洋第二第三艦隊は、朝鮮海峽を経てウラヂオストックに向はんとす。我が海

軍は初より敵を近海に迎へ撃つ計を定め、全力を朝鮮海峽に集中せしが、遂に之と會して、世界史上空前なる大海戦となれり。

明治三十八年五月二十七日午前四時四十五分、哨艦信濃丸は敵艦見ゆと報告す。東郷司令長官は直ちに全軍に出動を命じ、先づ小軍艦をして敵艦隊を沖島附近おきのしまに誘ひ寄せしむ。

皇國の興廢此の一戦にあり。各員一層奮勵努力せよ。との信號旗が戦闘旗と共に我が旗艦三笠にかゝげられしは午後一時五十五分にして、東郷司令長官は三笠以

下六隻の主戦艦隊を率ゐて、上村艦隊と共に先頭にある敵の主力に當り、片岡出羽瓜生東郷(少將)の諸隊は敵の後尾をつく。

敵の先頭部隊は直ちに砲火を開始せしが、我は之に應ぜず、距離六千メートルに近づきて始めて應戦し、はげしく敵を砲撃せしかば、敵の艦列忽ち亂れ、早くも戦列を離るゝものあり。

風號び海怒りて、波浪山の如くなれども、熟練なる我が砲手は物ともせず、打出す砲弾よく命中して、敵艦續々火災を起し、火煙海をおほひて敵を包み、午後二時四十

五分の頃ほひ、勝敗の數は既に定まれり。敵はかなはじと、にはかに路を變へて逃れ去らんとす。我は急に其の前路をさへぎりて攻撃せしかば、敵の諸艦皆多大の損害を受け、續いて我が驅逐隊より二回の水雷攻撃を受けて、敵の兩旗艦は遂に沈没し、其の他にも相ついで沈没せるもの多し。夜に入りて、我が驅逐隊水雷艇隊は砲火をくゞつて敵艦にせまり、無二無三に攻撃せしかば、敵艦隊は四分五裂の有様となれり。

明くれば二十八日、天よく晴れて海波靜かなり。我が艦隊は東郷司令長官の命により、鬱陵島附近に集りて敵

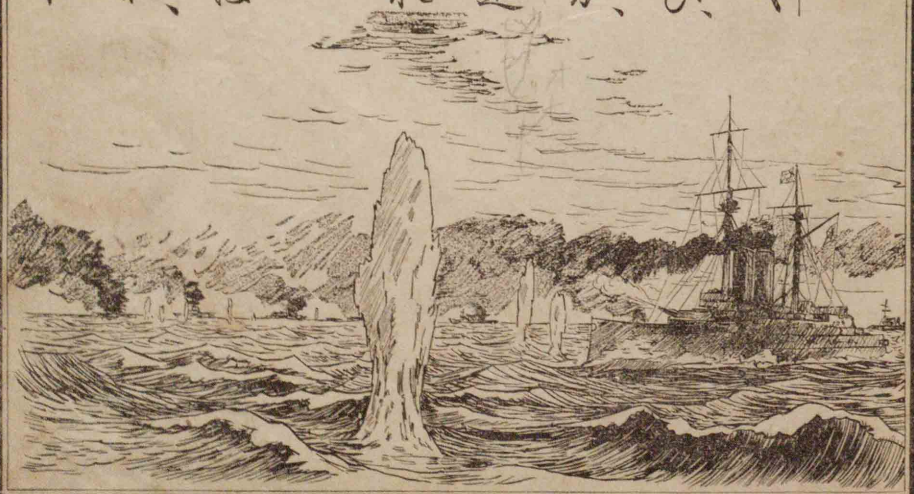
を待ちしが、東方に當りて、はるか  
に數條の黒煙を見る。よりて主戰  
艦隊及び巡洋艦隊は東方に向つ  
て、其の進路をふさぎ、片岡瓜生東  
郷の諸隊は其の退路を絶ちて、午  
前十時十五分全く敵を包圍せり。  
敵今は逃れぬところと覺悟した  
りけん、ネボカトフ少將は白旗を  
かゝげ、戰艦ニコライ一世以下四  
隻を擧げて其の部下と共に降服



せり。

敵の司令長官ロジストウンスキ  
|| 中將は昨日の戦闘に傷を負ひ、  
幕下と共に一驅逐艦に移りしが、  
我が驅逐艦の漣陽炎せんやうえんの二隻に追  
撃せられ、遂に捕へらるゝに至れ  
り。

此の兩日の戦に、敵艦の大部分は  
我が艦隊の爲に、或は撃沈せられ、  
或は捕獲せられて、三十八隻の中



逃げおほせたるは巡洋艦以下數隻のみ。敵の死傷及び捕虜は司令長官以下無慮一萬六百餘人。我が軍の死傷甚だ少く、沈没したるもの僅かに水雷艇三隻に止れり。東郷司令長官此の戦況を打電し、其の後に附加して曰く、

「我が聯合艦隊が克ク勝ヲ制シテ前記ノ如キ奇績ヲ收メ得タルモノハ、一ニ天皇陛下ノ御稜威ノ致ス所ニシテ、固ヨリ人爲ノ能クスベキニアラズ。殊ニ我が軍ノ損失死傷ノ僅少ナリシハ、歴代神靈ノ加護ニ依ルモノト信仰スルノ外ナク、嚮ニ敵ニ對シ勇進敢戰

シタル麾下將卒モ皆此ノ成果ヲ見タルニ及ンデ、唯感激ノ極言フ所ヲ知ラザルモノノ如シ。

と。勝報上聞に達するや、司令長官に賜へる勅語の中に「朕ハ汝等ノ忠烈ニ依リ祖宗ノ神靈ニ對フルヲ得ルヲ懌ブ。」

と仰せられたり。將卒之を聞きて感泣せざるはなかりき。

第三課 造船ノ話

船ヲ造ルニハ先ヅ綿密ナ設計圖ヲコシラヘル。其ノ圖ハ船ノ切斷面及ビ構成等ヲ何十分ノ一ニシテ縮圖デ、



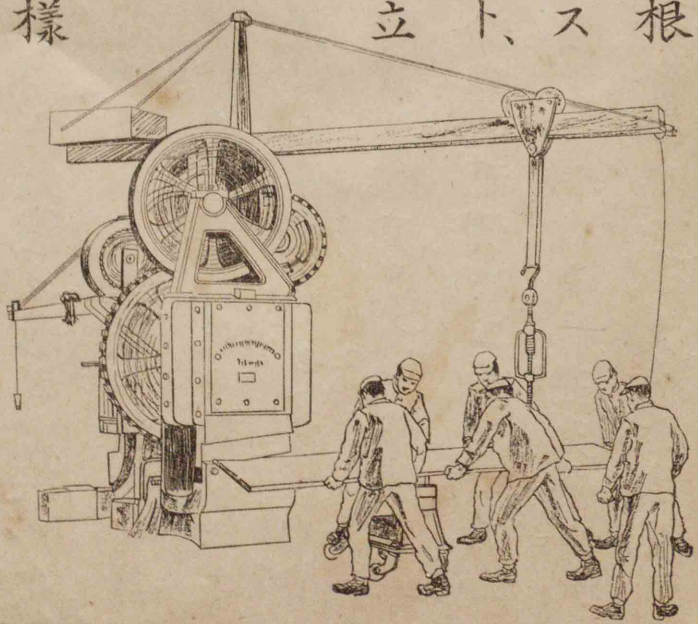
鍛

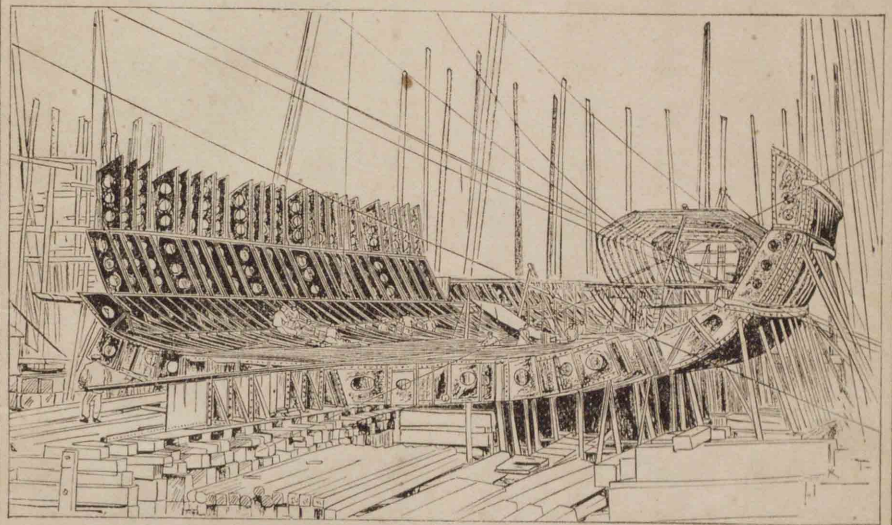
多人數ノ技師ヤ技手が永クカ、ツテ製圖スルカラ、大  
キナ戦艦ナドニナルト、設計圖バカリデ數百枚モアル  
トイフ。設計圖が出来上ルト、細密ナ構造分圖ヲ各工場  
ニ廻シ、必要ナ部分ハ實物大ノ圖ヲ作ツテ、始メテ製造  
ニ着手スルノデアアル。

工場ニハ色々アル。鐵ヲ鍛フ鍛工場モアレバ、鋼鐵眞鍮  
類ヲ鑄ル處モアリ、汽罐煙突等ヲ造ル處モアリ、又木製  
ノ器具類ヲ製造スル木工場モアル。イツレモ大規模ニ  
出来テキテ、盡ク蒸氣ヤ電氣ノ力ヲ利用スル。何千貫ト  
イフ大鐵鎚モ一人ノ手デ自由ニ運轉スルコトが出来

整

何時ト厚イ鐵ノ板デモ、大根  
ヲ切ル様ニ造作ナク切斷ス  
ル。船體ノ材料ガホゞ整フト、  
組立ニ取りカ、ル。船ヲ組立  
テルニハ、船臺ノ上ニ盤木  
ト呼ブ木材ヲ積ンデ、其ノ  
上ニ先ヅ龍骨トイフモノ  
ヲ置ク。コレハ人ノ脊骨ノ様  
ナモノデ、此ノ脊骨ノ左右カラ肋骨ヲ出シテ、段々ニ組  
立テテ行ク。之ヲ肋材トイフ。肋材ハ梁ヲ以テ内カラ支





へ、外側ニ板ヲ張り、梁ノ上ニ  
 床ヲ造ツテ甲板トスル。コレ  
 デ船ノ大體ノ形ガ出來ル。コ  
 レハホンノ大體ノ構造ノ話  
 デ、實際ハ龍骨ニモ、肋材ニモ、  
 梁ニモ、外皮板ニモソレぐ  
 附屬具ガアリ、大キナ船デハ  
 船底モ兩側モ二重張ニスル。  
 サテソレカラ船室ヲ分ツタ  
 リ、倉庫ヲコシラヘタリ、檣ホシラヲ

附ケタリ、機關ヲスエタリ、細カイ造作ヲシタリシテ、ス  
 ツカリ出來上ルマデニハ非常ナ手數ガ掛ル。  
 我が國ノ造船所デ、最モ規模ノ大キイノハ海軍ノ工廠シヤク  
 デ、中ニモ横須賀ト吳ユノガ最大ナモノデアアル。又私設テ  
 ハ三菱川崎等ノ造船所ガ最モ大キイ。帝國軍艦ノ薩摩サツマ  
 ハ横須賀、安藝アキハ吳ユテ造ツタノデアアル。  
 船艦ノ修繕、船底ノ塗換等ヲスル處ヲ船渠センキョトイフ。船渠  
 ノ底ト周リ三方ハ石デ疊ムカ、コンクリートデ固メル  
 カシテアル。船ヲ其ノ中ニ入レテ一方ノ扉トビラヲ閉ヂ、其ノ  
 水ヲポンプデカイ出シテ工事ニ掛ルノデアアル。我が國

デ一番大キイノハ佐世保海軍工廠ノ船渠デ、長サ百三十四間、渠口ノ幅十九間餘、深サ八間餘アル。

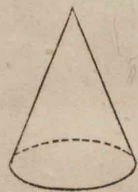
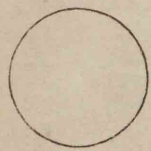
第四課 天氣豫報及び暴風雨警報

日々ノ天氣ハ我等ノ生活ニ大なる關係あり。故ニ文明諸國ニ於テは何れモ氣象臺測候所ヲ置キテ、日々ノ氣象ヲ調査ス。

我が國ニハ東京ニ中央氣象臺あり。南臺灣ノ熱帶地方より北樺太からふとノ寒帶ニ近キ地方まで、朝鮮てうせん及び清國ニあるモノヲ合セテ凡ソ百二十箇處ノ測候所ヲ置ケリ。各地ノ測候所ハ其ノ地方ノ氣象觀測ヲ毎日三回中央氣

象臺ニ報告シ、中央氣象臺ハ各測候所ノ報告ニよりテ天氣圖ヲ作り、毎日其ノ日ノ午後六時より翌日ノ午後六時ニ至ル向ふ二十四時間ノ全國氣象ノ大勢ヲ豫告ス。之ヲ全國天氣豫報トイフ。又各測候所ガ此ノ全國天氣豫報ト其ノ地ノ觀測トによりテ、其ノ地方ノ天氣ヲ豫告スルヲ地方天氣豫報トイフ。是等ノ豫報ハ氣象臺測候所ヲ始め、官廳諸役所等ノ前に揭示セラるゝを以テ、我等ハ之ヲ見テ、明日ノ天氣如何ヲ豫知スルコトヲ得ベク、又其ノ日ノ天氣豫報ハ毎朝ノ新聞紙ニテモ知るヲ得ベシ。

我が國及び附近に風雨のおそれある時は、中央氣象臺は全國暴風雨警報を發して之を豫告す。又一地方に荒模様ある時は、測候所は地方暴風雨警報を發して之を豫告し、警報の信號を各信號所に掲ぐ。信號は警報の種類によりて異なり。晝間は赤球を以て風の強きを示し、えんとらけい圓筒形を以て風雨の強きを、えんすけい圓錐形を以て暴風雨のおそれあるを示す。夜間は紅燈を赤球に、綠燈を圓筒形に、紅綠二燈を圓錐形に代ふ。故に今より出帆せんとする



船は、之を見て出發を見合せ、又航海中の船

は早く港に入りて難を避くることを得るなり。

諸子は中央氣象臺より發行する天氣圖を見たることありや。天氣圖とは各地に於て同時刻に觀測したる晴曇雨雪風の方角強弱、溫度等一般の天氣要素を地圖の上に記載し、あたかも天上より下界を見下すが如く、一目に全國天候の如何を示すものなり。天氣圖に用ふる普通の符號は左の如し。

○快晴

①晴

○曇

●雨

○霧

②雪

●雷雨

又風の方角は矢を以て示し、矢の上へ向ふは南風、右へ

向ふは西風、下へ向ふは北風、左へ向ふは東風とす。又其の強弱は矢の羽の數にて表すなり。

第五課 動物と植物の關係

蝶や蜂はちは花から花へいそがしさうに飛廻つて花の汁を吸ふ。其の時花の中の花粉くわふんは是等の蟲に着いて、一つの花から他の花に傳達される。植物の花には、同種の他の花の花粉を受けると、良い實を結ぶものがある。又ひよやつぐみは美しく熟してゐる果實をついばむ。それが爲におのづと種子をあちらこちらへ散布する。鳥ばかりではない、人や獸類も果實をたべては其の種

子を方々へまき散すのである。

動物は呼吸作用によつて、空氣中の酸素さんそを吸ひ、炭酸瓦斯たんさんを吐出す。若し之を消費するものがなければ、空氣中には炭酸瓦斯が段々に増加し、遂には地球上の動物が呼吸作用を営むことが出来なくなる道理である。然るに空氣中の炭酸瓦斯の分量が増さないのは、一方に於て植物が之を消費するからである。

植物も動物と同じく、呼吸作用こそくで酸素を吸ひ、炭酸瓦斯たんさんを吐出すが、其の吐出す炭酸瓦斯の分量は至つて少い。外に同化作用といつて、盛に炭酸瓦斯を取つて、其の中

の炭素を養分にして酸素を放つ作用がある。若し炭酸瓦斯を供給するものがなければ、空氣中の炭酸瓦斯の分量が著しく減つて、地球上の植物は盡く枯死すべきはずである。然るに炭酸瓦斯が絶えず供給されるのは、他にも種々の原因もあるが、動物の呼吸作用も與つて大いに力があるのである。

金魚を細口のびんに入れて、二三日も水を取換へないと、金魚は死んでしまふ。是は水中にとけてゐる酸素が吸盡されるからである。若し其の中に青い水草を入れて置けば、水を取換へなくても金魚は割合に長く生き

てゐる。是は前にいつた様な關係がびんの中の金魚と水草の間に行はれるからである。此の外、動物は植物の果實根葉等を食つて體を養ひ、植物は動物質の腐敗物を肥料として成長する等、生存上動物と植物の關係は極めて密接なものである。

第六課 鎌倉

七里の濱のいそ傳ひ、

稻村が崎、名將の

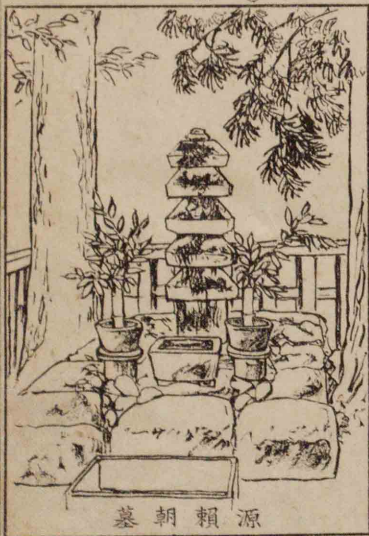
劔投ぜし古戰場。

極樂寺坂越え行けば、



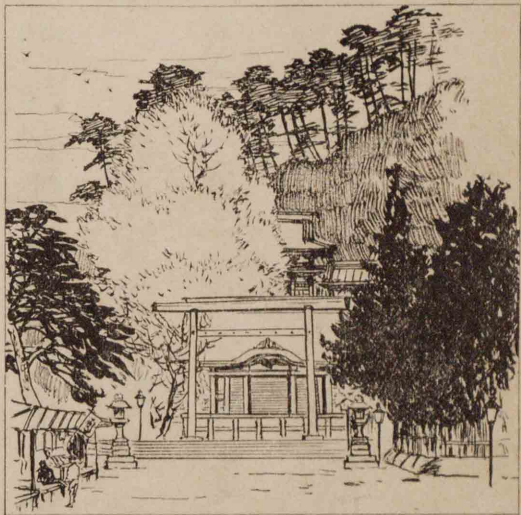
憤

問ははや、遠き世々の跡。  
 若宮堂の舞の袖、  
 しづのをだまきくりかへし  
 かへせし人をしのびつゝ。  
 鎌倉宮にまうでては、  
 盡きせぬ親王のみうらみに  
 悲憤の涙  
 わきぬべし。  
 歴史は長き  
 七百年、



源頼朝墓

稲村が崎



雪の下村過行けば、  
 八幡宮の御社。  
 上るや石のきざましの、  
 左に高き大銀杏、

長谷観音の  
 堂近く、  
 露坐の大佛  
 おはします。  
 由比の濱べを  
 右に見え、



興亡すべてゆめに似て、

英雄墓はこけ蒸しぬ。」

建長・圓覺古寺の

山門高き松風に

昔の音やこもるらん。」

第七課 烏居勝商



天正三年五月奥平信昌のぶまさ徳川家康いえやすの命を受けて長篠城ながしのを守る。武田勝頼たけだかつより大軍を率ゐて來り攻むれども、城兵善く戦ひて抜くこと能はず、攻めあぐみて長圍の計を取り、柵さくを城外に廻らし、繩なはを城下の河中に張りて、城兵の

ひそかに逃れ出づるを防ぐ。

城中には僅かに四五日の糧食を餘せるのみ。援軍の來らん日も亦期すべからず。信昌將士を集めていふやう、敵は長圍の計を取れるに、我は糧食殆ど盡きたり。今は轍わだちにあぎとふ鮒ふなの如し。城を抜け出でて岡崎に至り、急を主公に告ぐる者なきか。」と。烏居勝商といふ者あり、進み出でて其の使たらんことを請ひ、約していふやう、事の成否は今より豫測すべからず、若し向ひの山にのろしのあるを見れば、幸にして城を出でたりと知れ。三日を過ぎなば、又山上に來りて援軍の消息を示さん。」と。信



昌大いに喜ぶ。

時は十四日の月夜なり。黒き影は城の一方より現れ出で、ひらりとばかり身を水中に投入れたり。繩の鈴はしきりに鳴る。敵の衛兵相呼んで尋ねんとするに、一老兵のいふ、水方にみなぎれり。流をさかのぼる鱸サケの繩オモにふるゝならん。といへば、さもあらん。とて止む。しばらくして黒き影は向ひの岸に現れたり。

翌十五日の朝、勝商は山に上りてのろしをあげ、走りて岡崎に到り、家康に見えて援を求む。家康直ちに勝商をして織田おだのぶなが信長に見えて、長篠城の急を告げしむ。信長勝

方

見 援

商の勞を賞し、且いふ、我、明日大軍を率ゐて出發せんとす。汝も止りて我と共に行け。と。勝商事急なればとて直ちに引返す。

十六日勝商は再び山上にのろしをあげ、次いで城に入らんとするに、不幸發見せられて、遂に敵兵に捕へらる。勝頼、勝商に向ひていふ、明日城門に行きて、援軍來らず、速に降るべし。と告げよ。さらば我必ず重く汝を賞せんと。

翌日壯士十餘人、勝商を圍みて城門に到る。勝商城に向ひ、高らかに號んで曰く、諸君、憂ふることなかれ。徳川織

憂

田二公大軍を率ゐて、既に出發せらる。圍の解けんは二三日の内にあらんと。勝頼怒りて之を殺せり。昔調伊企儼イキエンは新羅シラキと戦ひて新羅の將に捕へらる。其の將伊企儼をして日本に向つて、日本の將我がしりを食へ。と號ばしむ。伊企儼却つて新羅王我がしりを食へ。といひて、幾度責めらるれども改めず、遂に殺されたり。古今勇士の意氣甚だ相似たらずや。

第八課 日本の女子

上毛野形名蝦夷カミツケノカテナエゾを討ちて利あらず、兵皆四散せしかば、夜に乗じて城をすてて逃れんとす。形名の妻、夫を勵ま

して、良人今獨り身を全うして、祖先以來の勇名を辱しめ給ふかと。自ら劔を帯び、侍女數人と弓を取りて盛に弦を鳴らせり。賊之を聞きて、城中兵尚多からんと思ひ、其の夜圍を解きて去れり。

新田義貞ニッタノヨシサダ、尊良親王を奉じて越前國金崎エチゼンのくにかながさきの城に在りし時、瓜生保其ウリムタモツの弟義鑑等と共に杣山ソノマに旗あげして義貞に應ず。足利氏アシカヅの大兵來り攻め、城遂に陥り、保義鑑共に戦死す。保の母は一時に二子を失ひて悲歎にくるゝならんと思ひの外、二子の君の爲に戦死せるは家門の譽なり。尚三子あれば更に再舉を圖るべし。とて、少しも悲

しむ色を見せざりき。

是等の人々は皆非常の大事にあひて心を取亂さず、能く其の處すべき道に處したる我が國婦人の實例にして、其の志操の固きは男子にも勝れり。

孝女お房みさきの幼き身を以て能く父母に事へたる、稻生恆軒いなむこうの妻の常に祖先の祭に心を盡したる、松下禪尼ぜんにの儉約を守りたる、鈴木いま今右衛門ゑもんの妻の慈善を行ひたる、皆後世女子の模範とすべき徳行なり。かの山内かざしよ一豊の妻が貧苦に居て、夫の一大事を忘れざりしは、戰陣の際に良人の名譽を全うせる形名の妻と其の徳を同じうす

慈

戒 叱

とやいはんくすのきまごつら楠木正行の母が正行を戒め、高千穂艦乗組水兵の母が其の子を叱りしが如きは、保の母と同じく、忠義の爲には恩愛を忘るゝ真心より出でたり。

凡そ婦人の道は夫を助けて家政を治め、子に教へて家名をあげしむるに在り。此の心は何處如何なる場合にも忘るべからず。人世には思はぬ不幸、驚くべき事變の何時起り來らずとも限らず。平時に於て常に之に處するの道を覺悟し置かずば、時に臨みて心亂れ、氣まどひて、見苦しき行を爲すことあらん。外温順愛敬の徳を守りて、内確固たる志操を持し、如何なる事變に際しても、

確

自若として其の常を失はざるは日本女子の美德なり。

第九課 學校落成式

昨年ノ夏カラ建築ニカ、ツテキ夕學校ガ落成シテ、前週ノ土曜日ニハ落成式ガ舉行サレタ。午前九時郡長警察署長郡視學町長郡會議員町會議員學務委員有志者、其ノ他工事關係者一同新校舍ニ參集シ、縣廳カラモ知事ノ代理トシテ事務官ノ臨席ガアツタ。先ヅ君ガ代ノ歌ヲ歌ツタ後、町長ハ工事ノ報告ヲシタ。敷地總坪數何千坪、建坪何百何十坪、之ニ要シタ經費ハ總計何萬何千圓、其ノ内何千圓ハ町内有志者ノ寄附金デアアル。就學兒

童ノ數ガ年々増加シ、義務教育年限モ六年ニ延長セラレタノデ、此ノ改築ヲ計畫シ、今新校舍ノ出來上ツタノハ眞ニ慶賀スベキ事デアアル。郡長ハ左ノ祝文ヲ讀ンダ。

コ、ニ本校新築落成式ヲ舉行セラル、ニ當リ、其ノ席末ニ列スルヲ得タルハ余ノ最モ光榮トスル所ナリ。ソモ、明治五年學制發布以來、教育ノ普及發達八年ヲ追ウテイヨ、盛ニ、今ヤ全國就學兒童ハ學齡兒童百分ノ九十七ヲ越エ、本郡ノ如キハ實ニ百分ノ九十九ノ好成績ヲ示セリ。隨ツテ學齡兒童ノ數ハ

年々増加シテ、學校ノ増設ヲ要スルコト日一日ヨリ急ナリ。今本町民諸君ノ熱心ニヨリ、コ、ニ新校舍ノ落成ヲ見ルニ至レルハ、國民教育ノ一慶事トイフベシ。本校舎ノ建築ハ質素堅固ヲ主トシ、外觀美ナラザレドモ、通風採光ニツナガラ其ノヨロシキヲ得、專ラ教授ノ便ヲ計リ、實用ニ重キヲ置キ、其ノ注意ノ周到ナル、縣下マレニ見ル所ナルベシ。將來本校ニ學ブ者ノ幸福如何ゾヤ。謹ンデ一言ヲノベテ祝意ヲ表ス。式終ツテ、一同校舍ヲ巡覽シタ。教場ノ數ハ十二、外ニ職員室裁縫室モアツテ、町立ノ學校トシテハ先ヅ申分ノ

ナイ設備デアル。

第十課 公事と私事

私事は軽く、公事は重し。古語に「私事を以て公事をすてず」といへり。昔藤堂高虎加藤嘉明事によりて相惡みし頃、會津の城主蒲生忠郷死せり。會津は奥羽重要の地にして、一日も守なかるべからず。將軍家光高虎の武名を重んじて、之に封ぜんとす。高虎「年老いて其の任にあらざ。とて之を否む。家光「さらば誰か然るべき」といふ。嘉明に如く者はあらず」と答ふるに、家光あやしみて、「汝多年嘉明と不和なりと聞く。今之を推舉するは如何に」と問

惡 封 否 推

ふ。高虎の嘉明と相惡むは私の小事なり。是は公の大事なり。何ぞ私事を以て公事を害せんや。と答ふ。家光大いに感じて其の言に隨ひ、嘉明を擧げて會津に封ぜり。嘉明後此の事を聞きて大いに恥ぢ、高虎と水魚の交をなすに至れりとぞ。

支那の昔趙といふ國に藺相如といふ賢臣あり。敵國秦に使用して功ありしかば、趙王厚く之を用ふ。趙の將軍にて武功の聞え高かりし廉頗之を見て心安からず、相如にあはば必ず辱しめん。と言ひ居たり。相如聞きて、力めて之を避け、廉頗の來るを見れば、車を轉じて逃ぐ。相如

の從者皆之を恥づ。相如の曰ふやう、余は秦王を其の朝に吐したるもの。何ぞ獨り廉將軍を恐れんや。然れども強秦の兵を趙國に加へざるは廉頗と我と二人あるが爲なり。兩虎共に闘へば、勢共に生きず。といへり。余の彼を避くるは、國家の急を先にして、私のうらみを後にするが爲なり。といふ。廉頗之を聞きて、深く其の非をさとり、相如の門に至りて罪を謝し、つひに無二の親交を結びりとぞ。

第十一課 阿蘇山

富士山の古歌には煙の立つことを歌へるもの多く、時

時破裂せしことも亦歴史に見えたり。昔箱根山の噴火  
せしことは我等既に之を學べり。是等は現時噴火の止  
れる火山なれども、現に噴火せる火山の數も全國に於  
ては五十座を下らず。就中噴火口の最も大なるを肥後  
の阿蘇山とす。其の噴火口の大きさは日本第一たるの  
みならず、亦實に世界第一と稱せらる。

阿蘇山の舊噴火口は南北の長徑六里、東西の短徑四里  
にわたり、此の間に根子岳<sup>だけ</sup>、高岳<sup>たか</sup>、中岳<sup>なかつ</sup>、烏帽子岳<sup>えぼし</sup>、杵島岳<sup>きしま</sup>の  
五岳<sup>ご</sup>東より西に相連りて突起す。最も東なる根子岳は  
七面山とも稱し、山頂<sup>のこぎり</sup>鋸の齒の如し。高さ千四百二十四



五メートルあり。内に二箇の噴孔<sup>こう</sup>ありて、盛に水蒸氣と  
よなと稱する火山灰とを噴出す。但し此の噴孔は時々  
其の位置を變じ、其の勢力にも消長あり。烏帽子岳は其

メートル、其の西にあ  
る高岳は高さ千六百  
九メートルあり。中岳  
は現今活動せる部分  
にして、其の火口は直  
徑六百メートルの圓  
形をなし、深さ百二十

の西南方に在りて、直徑八百メートルの噴火口を有し、其の北なる杵島岳も亦頂上に三箇の噴火口を有す。阿蘇山は此の如く複雑なる一大火山にして、山中に多くの噴火口及び温泉あり。火山全體の占むる面積は百十三平方里にして、東西十二里九町、南北十一里半に達せり。

火山の破裂は地中の水蒸氣、地皮の弱き處を破りて、ほどばしり出づるより起る。其の破裂するや、土地はふるひ、岩の細片は火山灰となりて飛散し、又之に次ぎて眞紅の熔岩ようがん噴出することあり。熔岩の光、火山灰及び水蒸

氣にうつりて、見るもすさまじき光景を呈す。今より百三十餘年前安永八年櫻島の破裂せし時は、九州四國山陽山陰東海道までも火山灰を降らしたりといふ。

## 第十二課 我が國の農業

太古人口少く、人智も開けざりし時は、魚鳥を捕へ、果實を採りて食物とせり。人口やうやく増加し、自然に生ずる物のみにては不足を告ぐるに至りて、動物を飼養し、又植物を栽培して、衣食住の材料を得ることを工夫するに至れり。是即ち農業の起原なり。

我が國は氣候温に、地味肥え、極めて耕種に適し、米麥の



除

栽培は最も早く開けたり。古來瑞穂スツホの國の名ある所以なり。

現今我が國の耕作地は臺灣及び樺太カラフトを除きて凡そ五百五十萬町歩あり。作物は米麥其の大部分を占めて、米の作付反別は凡そ二百九十萬町歩、其の收穫は年々凡そ四千六七百萬石にして、麥の作付反別は凡そ百八十八萬町歩、其の收穫は年々凡そ二千萬石なり。我が國の米は品質優良にして其の味最も美なり。

養蠶カイロも亦早くより開けて、今尚益盛なり。繭マユの取入高は年々増加して近年三百五十萬石を越え、生絲は輸出品

介

の首位を占めて、其の價額一億圓以上に及ぶ。茶も亦盛に栽培せられ、輸出價額年々一千萬圓に達す。

我が國の農業中最も開けざるは牧畜の業なり。是我が國の氣候風土の牧畜に適せざるにあらず、四面皆海にして、魚介の供給ゆたかに、鳥獸の肉を食すること少く、又衣服の原料も綿麻生絲に仰ぎて、家畜の毛に求むること少かりしによる。

我が國の農業は、決して現状を以て満足すべきにあらず。耕地の面積廣大なるが如くなれども、總面積の約一割五分に過ぎず。西洋諸國の耕地が其の總面積の二割

より六割に及べるに比すれば、尚甚だ狭小なりといふべく、大いに荒地を開き、美田を増すの必要あり。栽培法の如きも、舊法になづまず、能く學理を應用せば、一層其の收穫を増加することを得ん。家畜の飼養に至りては、更に之を盛にし、善良なる耕作用の牛馬、強健なる軍用の馬匹、滋養に富める乳肉等を供給せんこと、實に今日の急務なり。

世には農業を以ていやしき職業の如く思ふものなきにあらず。是大なる誤解なり。農業は我等が生活に必要な材料を作り出す所以にして、國家一日もこれな

るべからず。農業に従事するものは多く野外にありて、清潔なる空氣を呼吸し、筋肉を勞するが故に、身體常に健全なり。農は人の職業中最も健全、最も高貴にして、又最も有益なるものなり。といへるワシントンの言味はふべし。

第十三課 國産の歌

我が大日本帝國の

古き六十八國よ

沖繩諸島合せてぞ、

府は三つ、縣は四十三。

北海道の一廳と、

外に南北新領土。

朝鮮新にかりて、

天産多きうまし國。

四方の海の底廣く、魚介さまぐ、海草の

無限の富を藏したり。又森林は全國の

山野わほはぬ處なく、殊に名高き木曾吉野、

樺太臺灣太古より、紀伊の入らぬ林あり。

三池夕張大の浦、掘れど炭礦限りなく、

東に小坂西別子、足尾併せて三山は

銅の産額わび多し。古く知らるゝ佐渡生野、

其の他無數の礦坑は、山をうがちて山を鑄る。

米と麥とは全國に、製茶は静岡三重京都、

農産收入何阿れど、小さき蟲の吐出す

生絲を無二の輸出品。

長野埼玉をて群馬、

絹織物の産地には、

群馬の桐生伊勢崎も

近年々みに産額の

福井石川富山なる

焼物類は瀬戸九谷、

漆器は静岡輪島塗、

世界無比なる七寶の

々ぎ出し蒔繪の精巧も

養蠶業の盛大は

海なき縣に著し。

京都西陣始とし、

古く其の名を知らるたり。

増大せしは北陸の

羽二重織の輸出品。

有田清水薩摩焼。

黒江高岡會津塗。

名は海外にやゝろけり、

我が工業のほこりにて。

中國筋の花筵はなむしろ

紡績絲とまつちとは

輸出年々増すばかり。千里比隣の今の世は

有無互に通じ、世界各国皆市場。

以てく産業勵みつゝ、國の富をばぬやせかし。

貿易

第十四課 貿易

外國トノ交通少カリシ時代ニハ、商業ハ殆ド内國ニ限  
ラレタリキ。東西ノ交通盛ニシテ千里比隣ノ如キ今日  
ニ於テハ商業ハ世界ヲ相手ノ商業トナレリ。

我等ハ世界ノ市場ヨリ如何ナル物品ヲモ買ヒ得ルガ  
如ク、世界ノ各國ハ亦皆我が商品ノ市場ニシテ、全世界

基 則 低 嗜

ノ人ハ皆我が商賣ノ花客ナリ。

内國ノ商業モ、海外ノ貿易モ、有無相通スルノ理法ニ基  
ヅケルハ相同ジク、需要供給ノ原則ニヨリテ物價ノ高  
下スルモ亦相同ジ。故ニ商人ハ常ニ全世界ニ於ケル物  
價ノ高低ニ注意シ、需要供給ノ情況ニ精通スルヲ要ス。  
人種風俗ノ異ナルニ依リテ、人ノ嗜好モ亦同ジカラズ。  
同一國民ノ嗜好ニモ亦時々ノ變遷アリ。故ニ商業ニ從  
事スルモノハ常ニ花客ノ嗜好ヲ考へ、流行ノオモムク  
所ヲ察セザルベカラズ。  
商人ノ第一ニ重ンズベキハ信用ナリ。商人ニシテ信用

ヲ失フトキハ其ノ極終ニ破産ヲマヌカレズ。見本ト現物トヲ異ニシ、約束ノ期限ヲ違へ、平素ノ愛顧ニナレテ、商品ノ品質ヲ下スガ如キ皆信用ヲ害スル所以ナリ。信用ノ基ハ正直ニアリ。故ニ曰ク、正直ハ最善ノ商略ナリト。

廣告ハ商業發展ノ有力ナル手段ナリ。近年各國商人皆争ヒテ其ノ方法ヲ講ジ、廣告ノ爲ニハ多額ノ費ヲ投ズルヲ惜シマズ。米國商人ガ新聞其ノ他ノ印刷物ニ依リテ廣告ニ費ス金額ハ、一箇年實ニ十二億圓ノ多キニ達ストイフ。但シ不正當ナル手段廣告ヲ以テ販路ヲ大ナ

ラシメントスルガ如キハ、正直ナル商人ノ爲スベキ事ニアラズ。

富國ト強兵ト相待ツテ始メテ國家ノ盛大ヲ致ス。強兵ヲ以テ知ラレタル我が國ハ富國ノ道ヲ講ズルコト今日ノ急務ニシテ、海外貿易ノ發展ヲ圖リ、大イニ國富ヲ増殖スルハ商人ノ國家ニ對スル義務ナリ。商人ハ軍人ノ戰場ニ立ツト同ジク、常ニ報國盡忠ノ精神ヲ以テ、平和ノ戰爭ニ從事スベシ。

我が國ハ島國ニシテ、海外交通ノ便最モ多ク、殊ニ近クハ人口四億ヲ有スル支那ノ大國ニ隣ス。海外貿易ノ將

來ハ頗ル多望ナリ。富國ノ實ノ擧ルト擧ラザルトハ我ガ商人ノ信用勤勉機敏ノ如何ニ存ス。

第十五課 南滿洲鐵道

門司もじにて乗船し朝鮮海峽てうせんを過ぎて、黃海を西北に航すること約二日間にして大連に着す。是我が南滿洲鐵道の起點なり。市街建築物及び埠頭ふとう等頗る規模の壯大なるを見る。市街に大山通兒玉町こたま乃木町等の名あるは、明治三十七八年戰役の記念たり。

大連より南山得利寺大石橋等の戰蹟を経て、北へ進むこと約二百哩、遼陽れうやうあり。滿洲中の屈指の市場にして、我

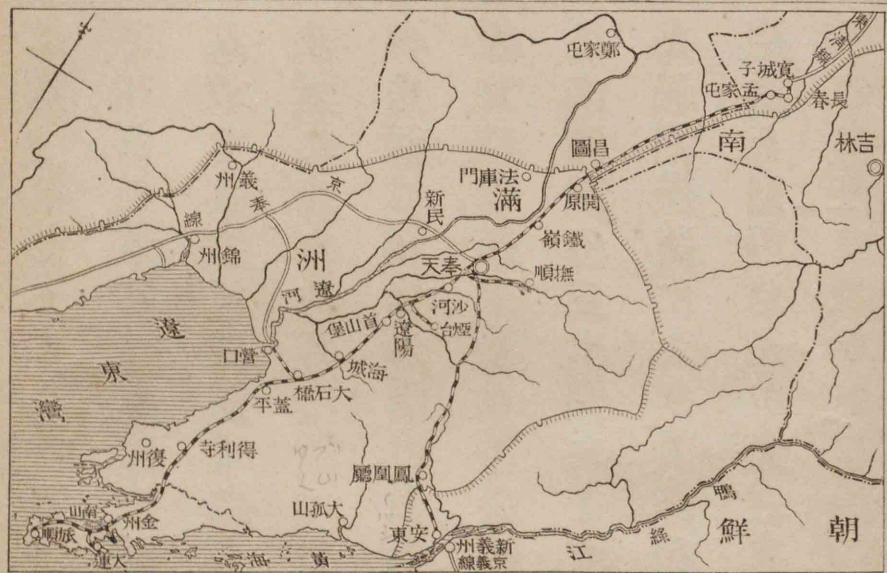
が駐劄軍ちゆうさくぐんの重要なる駐劄地なり。其の西南なる首山堡しゅざんぱうは高さ僅かに三百餘尺の小山なれども、遼陽防備の要害地にして、明治三十七八年戰役激戰地の一なり。

滿洲政治交通の中心たる奉天は、遼陽の北約四十哩、南滿洲鐵道中央停車場のある處なり。清國政府はこゝに總督を置きて滿洲全部を總管し、我が國亦總領事を置けり。其の附近我が國人の在留するもの多し。又清國京奉線は奉天より北京に通ず。奉天の南方沙河しゃかの名も永く世人の忘れざる所なるべし。

奉天より北すること約百八十八哩、鐵嶺てつれいを過ぎて長春

の地に至る。長春は南滿洲鐵道最北の驛にして、大連よりこゝに至る四百三十六哩。露西亞の東清鐵道との連結點とす。

南滿洲鐵道の支線には旅順線營口線煙台線撫順線安奉線あり。旅順線は大連の次驛臭水子より分れて、日清日露兩役に有名なる旅順口に達す。日露の戦役に於ては、露軍は海軍根據地として此の地を死守し、我が軍は苦戦十一箇月にして之を陥れたり。其の後方の山々は皆我が同胞の血をそゞぎし地ならざるはなし。營口線は大石橋より分れ、營口に於て清國京奉線の支



線に連接す。營口は一に牛莊港と稱し、遼河の河口にありて、遼河水運の起點なれば、商業港として、豆類豆油豆粕の輸出甚だ盛に、大連と共に滿洲の二大門戸と稱せらる。撫順は滿洲屈指の炭坑地なれば、特に支線を敷きたるなり。其の炭坑は炭層厚く、炭量亦豊富なり。

安奉線は奉天より鴨綠江の江口に近き安東縣に達して、朝鮮の縦貫鐵道に連結す。此の鐵道は日露戰役中に急設したる輕便鐵道にして、明治四十二年よりこれが改築に着手せり。

安東縣は鴨綠江附近の森林より伐出す木材の集散地なれば、安奉鐵道改築落成の日には、大連營口と相並んで、南滿洲の三大門戸と稱せらるゝ日あるべし。

南滿洲鐵道によりて、露西亞の東清鐵道及びシベリヤ鐵道を利用せんか、大連より僅かに二週間にして歐羅巴の中央に入るべし。

第十六課 歐羅巴の三大都

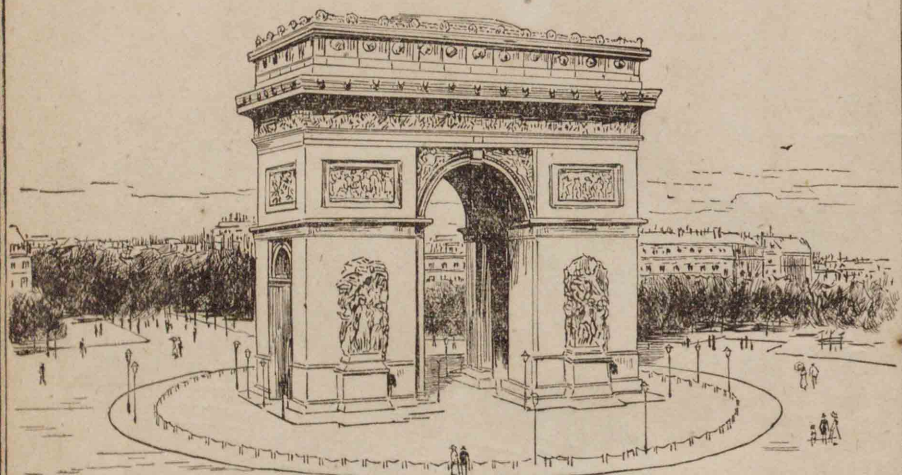
倫敦巴里伯林を歐羅巴の三大都とす。倫敦にはテムス河、巴里にはセーヌ河、伯林にはスプレー河ありて各其の市街を貫流す。テムスとセーヌとはスプレーに比すれば、河幅はるかに廣く、之に架したる橋は何れも壯大にして、市の美觀を添ふ。

倫敦は人口四百八十萬、接續都會を合すれば七百三十萬の多きに達す。歐羅巴第一の大都會にして、亦實に世界第一の大都會なり。巴里の人口は二百八十萬、伯林は二百萬を算す。然れども近年獨逸國力の盛に發展する



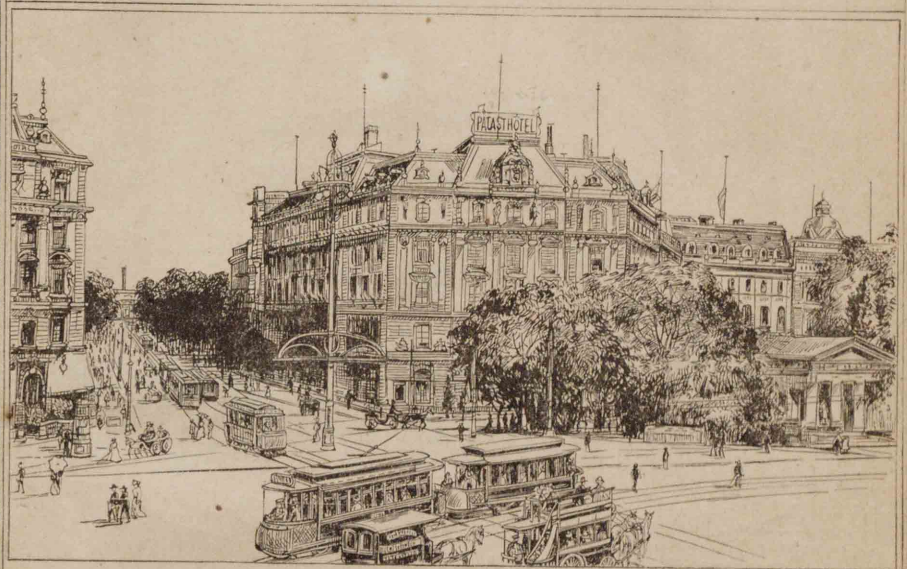
と共に、首府の人口も年々著しく増加する勢なれば、其の巴里と同數に至るも亦甚だ遠からざるべし。倫敦の市街は繁盛を以て名高し。市の中央最も繁華なる處は道幅狭く、車馬街上に満ちて往來頗る困難なり。されど十字街頭に立てる巡査の一舉手の合圖に、通行の人は行くも止るも唯其の命に従ひて、少しも混雜を生ずることなし。

巴里の市街は壯麗を以て聞ゆ。佛國の長き歴史を飾れる壯大なる建築の數々高く中空にそびゆるのみならず、人家も多くは六七層にして、町幅も亦之に適へり。ン



ンゼリゼーの大通の如きは、世界最美の街路と稱せらる。兩側には白色の高屋相並び、人道と車道との間なる左右二列の綠樹は枝を交へて、雅麗比なし。

伯林の市街は清潔を以て著る。市區井然として家屋の高さ略相等し。街路は掃除最もよく行きとゞきて、衛生消防



を始め、近世の學術を應用せる百般の設備皆具れり。此の點より見れば、眞に近世都市の好模範たり。  
倫敦は世界第一の大都會なれども、古き都市にして街路狭ければ、古風の乗合馬車を以て主なる交通機關とす。然れども地下には各種の鐵道縱横に貫通し、テムス河床

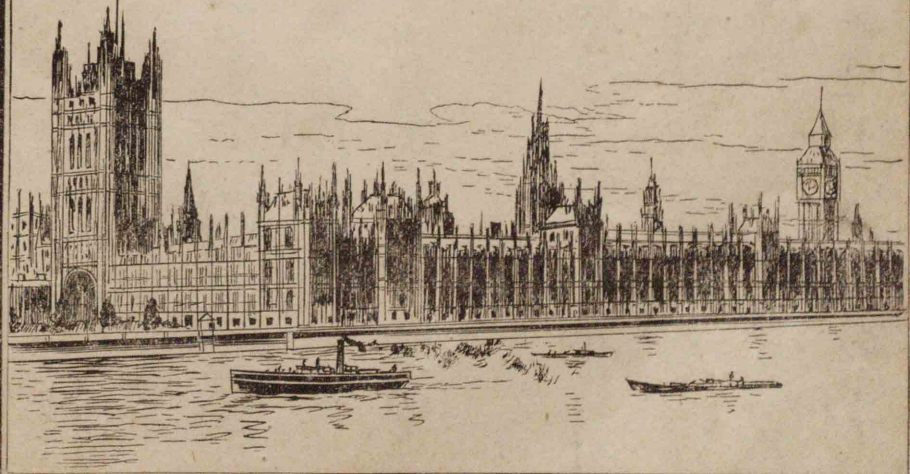
の下をも往來せり。

壯麗なる馬車自動車の多きは、巴里を第一とし、市中到處其の往來織るが如く、殊に公園ひろこ廣小路うぢぢの如きは、十數臺列をなして前後相接す。電車の便の最も開けたるは、伯林にして、市街の隅々通ぜざる處なく、車内亦清潔にして、乗心地甚だ好し。

倫敦には英國博物館、英蘭らん銀行、國會議事堂等、世界に名を知られたる建築物多し。英國博物館は古書古物の多きこと、世界に冠たり。英蘭銀行は設立の古きと、資本の多きと、信用の厚きとに於て、其の右に出づるものなし。

英國は國會の最も早く開けたる國にして、テムス河岸の國會議事堂は第一に觀客の目を引く建築物なり。

巴里にもルーブル博物館凱旋門を始め、世に聞えたる建物少からず。ルーブル博物館は名畫古彫刻最も多く、美術博物館として世界無比の名あり。凱旋門は有名なるナポレオンの計畫に成れるもの



にて、壯大なること世界第一と稱せらる。

伯林には世界にほこるべき程の大建築物なし。最も人目を引くものは國會議事堂なりといへども、其の規模甚だ大ならず、其の建築も亦新し。獨逸帝國は創建以來年尚淺ければ、首府の壯觀の未だ英佛二國に及ばざるものあるは固よりあやしむに足らず。

第十七課 獸類の移住

ナポレオンがモスコより退軍せし時、露西亞の狼は行くく雪中に倒る、佛兵の跡を追ひて、中部獨逸にまで來りしことあり。此の如きは動物の一時的移住な

り。  
 全然移住せし例は二百年以前、通常の灰色の鼠の一群  
 大舉して、印度よりペルシヤを経て歐羅巴に移り、古來此  
 の地方にありし黒色の鼠を全く追拂ひしことあり。又  
 かつて栗鼠の大群ウラル山中の一都會に現れしが、一  
 隊又一隊、續々相次ぎ、三日三夜引きも切らず、人々の驚  
 き恐れて逃げかくるゝ中、町を過ぎ、屋根を傳ひ、窓を抜  
 け、座敷を横ぎり、何れも南より北へ同一の進路を取り  
 て、山あれば越え、河あれば泳ぎ、道に當るもの一として  
 之をさまたぐるゝこと能はざりきといふ。

此の如く全然移住するは稀に見ることなれども、亞弗  
 利加、印度の獅子、南亞米利加の野牛等の、昔の遊牧の民  
 の如く、食物を追うて其の居を轉ずるは珍しきことに  
 あらず。

又燕の春來りて秋去り、雁の秋來りて春去るが如く、獸  
 類中にも食物を求め、氣候を追ひて、毎年一定の季節に  
 其の居を移すもの少からず。

南亞米利加の森林にオレンジの熟する季節には、數多  
 の猿遠く數百里の地より集り來りて之を食ひ、果實盡  
 くれれば、再び其の故郷に歸るを例とす。東南シベリヤの

高地に住めるかもしかの  
一種は、冬日河水盡く氷結  
するに至れば、大群をなし、  
水を尋ねて低地に下り、春  
を待ちて再び山谷に入る。  
一定の季節に最も多數の  
移住を見るは露西亞及び  
シベリヤの寒き平地に住  
せるレミングと稱する地  
鼠の一種なり。満目の廣野



埋  
乏  
暖

危  
顧

雪に埋れて食物の缺乏せる頃に至れば、温暖なる地方  
に移らんと欲するもの期せずして相集り、次第に其の  
數を加ふ。時としては幾千萬とも數知れぬ大群、長列を  
なして枯野を横ぎるに、遠く之を望めば、あたかも洋々  
たる江流を見るが如き壯觀を呈することあり。過ぐる  
處の沿路、果實草根を始め、凡そ取つて以て食ふべきも  
のは殆ど餘す所なし。しかも僅かに飢をしのぐは先頭  
に進める一部に過ぎず、列後に在るものは更に一物を  
も食ふこと能はず、飢餓刻々にせまるが故に、次第に行  
進を早め、遂に危害を顧みず、向ふ處何物をもはゞから

ずして突進す。されば河水湖水におぼれて魚腹に葬らるゝもの、野獸の爪牙にさかれて食はるゝもの、其の數を知らず。

第十八課 苦樂

苦あれば必ず樂あり、樂あれば必ず苦あり。先づ苦しみて然る後に樂しむを賢者とし、先づ樂しみて然る後に苦しむを愚人とす。永遠の幸福を望む者は一時の勞苦を忍ぶべし。老後の安樂を願ふ者は若年の辛苦をいとふべからず。少壯有爲の間を徒に遊び暮さば、老いて後悔ゆともかひなかるべし。

世を憤り、人をねたま、身をはかなみて自ら苦しむは、百害あるも一利なし。世を憤らんよりは、進みて之を救済すべし。人をねたまんよりは、勉めて之に勝らんことを工夫すべし。身をはかなむも過ぎしことは追ふべからず。常に前を望みて、徒に後を顧みることなかれ。遠き慮なければ、必ず近き憂あり。されど餘り小さき事にまで遠き將來を慮るは、却つて心を苦しめて益なし。現在の職務に忠實なれば、上下の愛敬信用其の身に集り、心廣く、體ゆたかなり。是即ち遠きを慮る所以なり。富貴は人の共に欲する所、貧賤は人の共にいとふ所な

りといへども、富貴なる者必ずしも樂しからず。貧賤なる者必ずしも苦しからず。守る所正しければ、心に憂苦なく、行ふ所直ければ、身常に自由なり。位人臣の榮を極め、富天下に冠たるも、自ら省みてやましき所ある者は、苦多く、樂少し。孔子曰く、疏食をくらひ、水を飲み、肱を曲げて之を枕とするも、樂み亦其の中に在り。不義にして富み且貴きは、我に於て浮雲の如し。と。

進取の氣象に富める人は何事を爲すにも、此の事は必ず成るべしと覺悟して、熱心に其の事に従ふを以て、成功は期せずして到る。引込思案の人は徒に其の結果を

思ひわづらひて、優柔不斷其の事業に取掛らざる中に、良好なる時機を失ふこと多し。快活なる精神を以て熱心に其の事業に従事せば、天下何事か成らざるを憂へん。

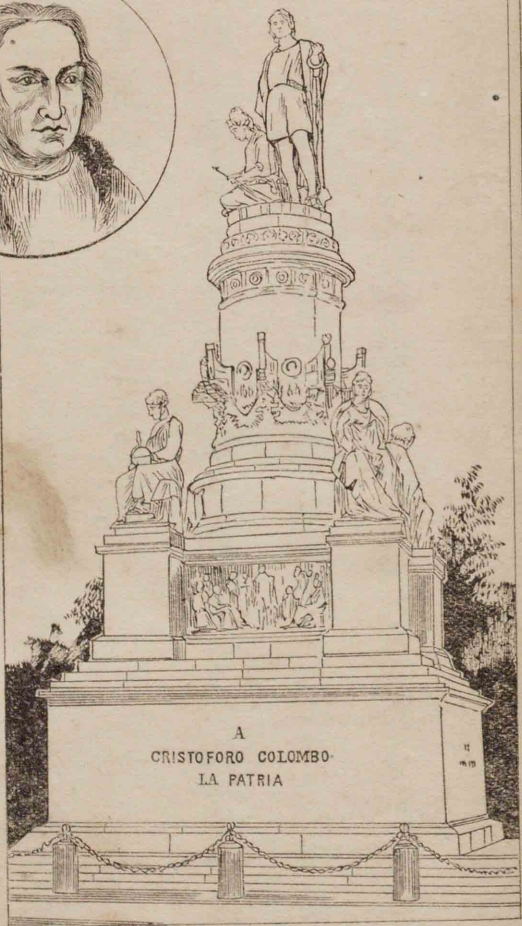
第十九課 コロンブス

四百年以前までは東半球の人は全く西半球を知らざりき。始めて西半球の陸地を發見したるは伊太利人コロンブスにして、彼をして其の志を成さしめたるは西班牙の皇后イサベラなりき。

當時伊太利は貿易の中心地にして、印度地方の寶石香

料絹布類は盛にベニスゼノア等の港を経て歐洲へ輸入せり。然るに印度との交通は長日月を要し、中途の危険亦少からざれば、便利なる航路を開かんことは歐洲人一般の希望なりき。ゼノアに生れて幼時より海事を好み、十四歳の時より既に航海業に従事せるコロンブスは最も熱心に之を考へ居たり。

コロンブスは初より世界は球形なりと信じ、歐羅巴の西海岸より西を指して進まば、印度の東海岸に到着すべしとの意見を抱けり。たまく、元の忽必烈に仕へたる伊太利の大旅行家マルコ・ポーロの日本に関する記



事を讀み、又ポーロの旅行記によりて製したる地圖を得

て思へらく、若し歐羅巴より西へ向つて進まば、印度に達する前、日本又は支那に到着するならんと。亞細亞の東端は歐羅巴の西端に近しと信じ、地球を餘りに小さく見たるコロンブスの誤



は遂に此の大発見を成さしむる基となりしなり。  
コロンブスは葡萄牙ポルトガルに客遊中、熱心に此の説を主張し  
たりしが、何人も一笑に附して顧みるものなかりき。是  
に於て空しく志を抱いて西班牙に轉じ、居ること多年、  
遂に皇后イサベラの知る所となり、其の保護の下に此  
の大探檢を行ふに至れり。

西曆一千四百九十二年八月三日の朝、今日はコロンブ  
スが遠征隊出發の日なりとて、西班牙パロスの港は未  
明より人の山を築けり。熱湯の海ありと語る者、舟を吞  
む海獸ありと談ずる者、乗組員の運命をあはれむ者、コ

ロンブスの暴舉をあざける者、皇后の無謀をそしる者、  
口々に語り合へり。遠征の船は三隻の小艦にして、乗組  
總數は一百二十人。船の次第に朝霧の中にかくれ行く  
を見送りて、數萬の見物人は再び此の船を見ること能  
はざるべしと語れり。

パロスを出帆して七日目に、亞弗利加アフリカの北西岸に近き  
カナリヤ島に着し、こゝにて船體に修繕を加へ、九月六  
日更に西へ向つて航行せり。是より先は未だ航行せし  
ことなき大洋なれば、乗組の人々も次第に不安の念を  
生ぜり。かくて日數は重れども、陸地の片影だにみとめ

難く、朝の風を聞きては鳥の聲かと疑ひ、夕の雲を見ては陸の影かと疑へるも、幾度なるを知らず。船員は失望の餘り、コロンブスを海に投じて歸國せんと謀るに至れり。コロンブスは獨り堅固なる決心を以て動かざる。こと山の如く、船員も其の勇氣に感じて命令に服せざるを得ざりき。

十月十一日、河中に生ずる水草流れ寄り、又果實の附きたる枝の波のまにまに浮べるを見たり。人々始めて陸地の近きを知り、其の夜は一同うれしきに眠ること能はず。十時頃、はるかに一點の燈火をみとめしが、朝の二

其處

時頃「陸陸」と呼ぶものあり。「何處ぞ、すぐ其處に」といふ聲かまびすしく、先頭の一艦が發せる號砲に、人々喜びて、手の舞ひ、足のふむ所を知らず。

明け行くまゝに見渡せば、前面の一島草木青々として、花開き、鳥さへづり、土人は驚きて此の新來の客を眺めて立てり。船員皆歡喜して、コロンブスの身邊を圍み、争ひてこれまでの不從順なりし罪を謝せり。

一千四百九十二年十月十二日、コロンブスは深紅の美服を着し、西班牙の國旗を持ち、歡喜を眼の光に浮べて眞先に上陸し、此の西班牙の新領地をサンサルバドル

邊

と命名せり。是今の西印度諸島の一なり。  
かくてコロンブスは報告の爲、西班牙に歸航せしが、パ  
ロス港の群集は出帆の日に數倍し、前のそしりし者、怒  
りし者、罵りし者、泣きし者、皆争ひてコロンブスを歓迎  
し、皇后も亦コロンブスを引見して、厚く其の勳功を賞  
せり。

其の後コロンブスは數回の航海を試みしが、一千四百  
九十八年第三回の航海に於て、オリノコ河口に達し、始  
めて亞米利加大陸に上陸するに至れり。コロンブスの  
遠征時代は我が國後土御門天皇の御代にして、北條早

雲が小田原城に據りて、次第に其の權力を四隣に張ら  
んとせる頃なりき。

第二十課 辻音樂

頭には霜をいたゞき、身にはつゞれをまとひ、やせ衰へ  
た體を義足に支へて、路はたにバイオリンを弾いて居  
る老人の辻音樂師がある。處は奥太利の首府維也納の  
大公園、今日はにぎやかな祭日である。

忠實な犬は古帽子をくはへて、あはれな主人の爲に、道  
行く人の投與へる喜捨を待ちわびてゐる。見る物の多  
い今日の祭日に、時代後れの下手を音曲に耳を傾ける

傍 | 額 | 紳 | 賃 | 音 |

者は一人もない。日は既に西へ傾いて、祭見物の人々は段々歸り始める。帽子の中に一文の錢もない。老人は傾く夕日を望み、帽子の内を眺めては、幾度かためいきを ついて居る。最早弾く力も盡きて、傍の石にこしを下し、額を両手に支へて人知れぬ涙をこぼして居る。

木蔭こかげに立つてつくぐくと此の様子を見てゐた一人の紳士があつた。づかくと走り寄つて、ちよつと貸したまへと言ひながら、其のバイオリンを取つて弾始めた。弓が一度糸にふれると、天上の音楽の様な美しい音がわき出した。老人は、どうしてあのバイオリンから、あんな

聽

奪

な音が出るか、どうして又自分の弾く時にはあんな音が出ないのかと不思議さうに、バイオリンと紳士の手つきを打ちまもつて居た。

聽衆は四方から集つて来て、見る内に人山を築いた。重く沈んだ調に暗い、海うみの底へ引込まれるやうな氣がするかと思ふと、軽く浮立つた調子に、野越え、山越え、ふわりくと春霞の彼方へ連れて行かれるやうな心持になる。變化極りない妙音は、忽ち人の心を百花満開ののどかな春によはせ、又忽ち落葉散敷く秋のさびしさに沈ませる。人々は唯神曲に心を奪はれて、妙音の外

復

には何物も見えも聞えもしない。  
 やゝあつて紳士はしばらく弾く手を止めると、聴衆は  
 錢をつかんで、争つて老人のさゝげた帽子の中へ投入  
 れる。銅貨といはず、金銀貨といはず、雨の降る様に手當  
 り次第に投込む。またゝく間に帽子に一ぱいになつた。  
 老人は之を袋に移して、再び帽子を差出す。見る間に復  
 あふれるばかり。  
 紳士は更に奥太利の國歌を弾始めた。幾千の聴衆は帽  
 子をぬいで相和して歌つた。歌が終ると、紳士はバイオ  
 リンを老人に渡し、目禮して何處へか行つた。日ははや

没して、燈火の光が點々として此處彼處にかゞやいて  
 るとは、今の今まで誰一人も氣附かなかつた。かの情  
 深い紳士は誰であつたか、老人も知らぬ、聴衆も知らぬ。  
 一同は唯神の仕業とのみ思つた。佛蘭西のバイオリン  
 の名手アレキサンドル、ブーシェーであつたとは後にな  
 つて分つた。

第二十一課 烈士喜劔

從容  
揮

赤穂浪士が數年の苦難を忍び、遂に主君の仇を報じて、  
 從容死に就けるは徳川時代に於ける史上の一美談た  
 るのみならず、日本武士道の精華を發揮せるものとい

ふべし。四十七士の事蹟は兒童走卒も之を知らざるは  
なく、東京高輪泉岳寺たかなわせんがくじの墓前には今尚香花の絶ゆるこ  
となし。

四十七士の統領たる大石良雄よしをは初め京都に在り。日々  
遊樂を事として全く復仇の事を忘れたるが如し。薩摩さつま  
の士に喜劔といふ人あり、未だ良雄と相識らざりしが、  
一日良雄に面會し、反復直言して復仇の事を勸む。良雄  
一笑して更に耳を傾けず。喜劔大いに罵つて曰く、主人  
は死し、主家は亡びたるに、汝家老として仇を報ずるを  
知らず、人面獸心とは汝の事なるべし。獸ならば、かくし

て食へ」と、足の指に魚肉數片をはさみて良雄の面前に  
出す。良雄平然頭を低くして之を食ひ、からくと打笑  
へり。

喜劔其の後江戸に出で、義士復仇の擧を聞き、其の主謀  
の良雄たるを知るに及びて、驚いて曰く、あゝ、余死せん。  
我が目、獸として良雄を視、我が舌、獸として良雄を罵り、  
我が足、獸として良雄に食はしめたり。我が心の良雄を  
獸待せしは罪死に當れり」と。是より暇を請ひて郷里に  
歸り、公私の用を終へて、再び江戸に出づれば、良雄以下  
既に死を賜へり。喜劔直ちに泉岳寺に行き、其の墓を拜

して曰く、我當に萬罪を地下に謝すべし。と、刀を抜き切腹して終る。時の人其の志を壯として之を義士の墓側に葬れりといふ。事幕末の儒者林鶴梁（じゅっしや くわくりやう）の作れる烈士喜劔碑（きけんひ）の文にくはし。

第二十二課 主婦の務

出入口にはき物の置亂れたる家には、盗人のうかゞふこと多しといへり。出入口の混雜せる程なれば、一事が萬事、總べて家内に不整頓、不始末の事多きが故なるべし。座敷の床の間より臺所の戸棚（とだま）に至るまで、諸道具の置場處を一定し、前後左右次第よく並べて、ふたをすべ

き物にはふたをし、錠（ぢやう）を下すべき處には錠を下し、急ぎの場合にも混雜なく、暗き時にも手探にて用を足し得る様に、極りよく整へ置くは主婦たる者の務なり。家内のよく整頓せる程の家は日々のふき掃除も必ず行届きて清潔なるものなり。凡そ家内の掃除は座敷居間臺所のみならず、便所の隅（ぐま）より下駄箱（げだた）の奥までも注意せざるべからず。其の他食器衣服等何事にも清潔を旨とするは衛生上にも必要なる事なり。戸締（とじまり）の用心よりも火の用心は一層大切なり。煙草の吸ひがらより大火事を引起せしこと其の例數ふるにい

とまあらず。主婦は寢に就く前、先づ竈かまどの下より火消壺つぼまでもよく検査して、戸締を爲すと共に火の用心を忘れざる様にすべし。

一家中に病人なき程仕合なる事なし。家内には老人あり、子供あり。衛生上の注意を怠らずして、何人も病にかされぬ様にすべし。四季寒暑の變り目にはとりわけ衣服飲食に氣を附くべし。病氣のみに限らず、何事にても少しの不注意は大なる禍を招く。若し家内に傳染病等にかゝるものあらば、近處隣へ對しても申しわけなく、世間へ對しても相濟まぬ次第ならずや。

## 染禍

## 濟

## 責

主婦は老人にいたはりかしづく外、幼兒を育て上ぐる大任あり。男子は外に出でて不在勝のものなれば、幼兒は母の感化を受くること最も多し。其の母によりて其の子を察せよ。といへるが如く、子供の行儀作法等につきては、主婦たる人の責任最も重し。

主婦は又常に家庭和樂の中心となりて、家内一同を樂しましむべし。家内能く和合して、互の心にわだかまりなく、むつまじく打揃うて夕の膳ぜんに向ふ時、一日の勞苦は忘れられて、更に明日の活動を思ふなり。

日々の暮しは、入るを計つて出づるを制す。を第一義と

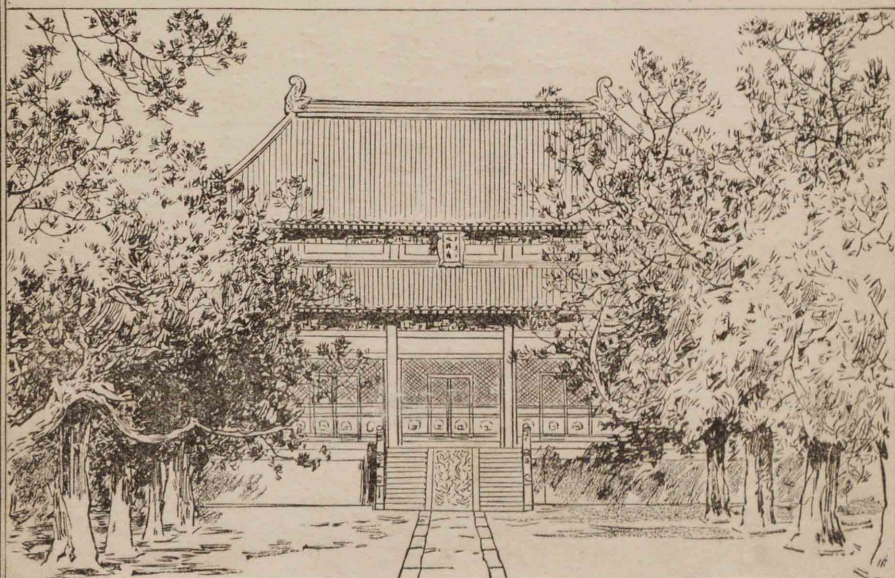


す。家の収入を基として、豫め其の支出を定め、衣服飲食の費皆其の範圍を越ゆることなかるべし。其の上不時の出費の爲、多少の準備を爲し置くを必要とす。身分不相當の活計は産を破り、家を亡す基なり。をごりに流るるは易く、をごりより儉約に進むは難し。  
 儉約を守るは大切なれども、人情にそむき、義理に外れども、費用を惜しむは賤しむべき事なり。身分相當の交際際は家を保つ上にも必要なり。親類縁者はもとより、世間の交際をも外さず、慈善の事業にも應分の資を投ずべく、公共の事業にも後れを取るべからず。

第二十三課

孔子と孟子

支那しな幾千年間の人物中、大聖として徳化の尚今日に著しきもの、孔子に如くはなし。孔子は凡そ二千四百六十年前、支那の春秋時代に生る。當時支那は王室衰へ、諸侯各其の國によりて互に勢を争ひたり。孔子は魯ろといふ國に生れ、人と爲り禮を好み、温良恭儉なりき。魯の重臣某の病死せんとせし時、其の子に教へて曰く、孔子は年少にして禮を好み、我死せば、汝必ず之を師とせよ。と。子其の遺言を奉じて、往いて學べり。是孔子が十七歳の時なりき。孔子事へて吏となりしに、治績大いに擧り、職



を退きし後も弟子の道を問ふもの益多かりき。齊の景公も亦道を孔子に問へり。君君たり。臣臣たり。父父たり。子子たり。とは孔子が景公に教へたる語なり。

或時齊の臣景公に告げて曰く、魯孔子を用ふ。或は齊を危くすることあらんと。景公よりて魯と好を結ばんが爲に

魯公と會見す。其の時齊の有司進みて戲樂を奏せしかば、孔子は禮に反せるものありとて之を止めしむ。景公歸りて群臣に告げて曰く、魯人は君子の道を以て其の君を輔くるに、我が臣の行ふ所は禮に反す。我罪を魯君に得たり。如何にせば可ならん。と。齊の臣答へて、君子は過あれば謝す。君實を以て謝せよ。と。是に於て齊侯魯より奪略せる地數箇處を返せり。此の會に於ける孔子の行動は、藺相如が秦王を叱したるとは異なり。相如は氣を以て人を服せりといへども、孔子は義を以て人を動かせしなり。智徳の最も圓滿に發達せる人格は孔子に

於て之を見るべし。

孔子の孫子思の學説を受け、孔子の道を傳へて大賢の名あるは孟子なり。孟子の幼時母は深く意を其の教育に用ひ、市井の感化を恐れて、三度其の居を遷せりといふ。其の後孟子出でて學び、學を卒へずして歸りし時、母たましく機上に在り。直ちに其の機を斷ち、孟子を戒めて曰く、汝の今學を廢するは我が此の機を斷つが如し。と。孟子これより感奮勉勵して遂に一世の大家となり、戰國爭奪の世に在りて、専ら聖人の道を講せり。孟子死して二千餘年、孔子と共に其の名益あらはる。孝

經に曰く、身を立て、道を行ひ、名を後世にあげて、以て父母をあらはすは孝の終なり。と。孟子の如きは即ち其の一人なり。

第二十四課 大國民の品格

官位門地技術財産學問等に於て衆を抜く者は、個人としても自ら高尚なる品格を要するが如く、世界強國の國民たる名譽を負ふものは、國民としても之に相應する品格を備へざるべからず。

國民は個人の集合より成るものなれば、國民の品格といふも亦各個人の品格の外に出でず。國民各自の行爲

をつゝし、し、み、品、格、を、重、ん、ず、る、は、即、ち、國、民、の、品、格、を、高、む、  
 る、所、以、な、り、と、い、へ、ど、も、殊、に、他、國、人、の、注、意、を、引、く、も、の、  
 は、社、會、の、公、德、及、び、國、民、の、度、量、な、り、と、す。  
 公、德、と、は、公、衆、の、衛、生、を、重、ん、じ、社、會、の、規、律、を、尊、び、公、共、  
 の、物、品、を、大、切、に、す、る、等、總、て、衆、人、の、利、害、を、考、へ、て、其、  
 の、行、爲、を、つゝし、む、德、義、を、い、ふ。市、街、道、路、を、不、潔、に、し、官、  
 廳、學、校、神、社、佛、閣、等、の、建、築、物、を、け、が、し、公、園、の、樹、木、を、折、  
 取、る、が、如、き、は、公、德、の、低、き、を、示、し、大、國、民、の、品、格、を、傷、つ、  
 くる、も、の、な、り。

道、を、行、く、に、も、舟、車、に、乗、る、に、も、旅、館、に、宿、る、に、も、自、ら、公

衆、に、對、す、る、禮、儀、あ、り。衆、人、群、集、の、場、處、に、て、他、人、を、お、し、  
 の、け、汽、車、汽、船、等、の、中、に、て、我、獨、り、廣、き、場、處、を、占、領、し、旅、  
 館、に、て、夜、晚、く、高、聲、を、發、し、て、他、人、の、安、眠、を、さ、ま、た、ぐ、る、  
 が、如、き、は、文、明、國、民、の、爲、す、べ、き、こ、と、に、あ、ら、ず。老、人、長、者、  
 の、爲、に、道、を、ゆ、づ、り、幼、者、不、具、者、の、爲、に、席、を、與、ふ、る、が、如、  
 き、は、個、人、と、し、て、も、國、民、と、し、て、も、其、の、心、の、奥、ゆ、か、し、き、  
 を、感、ぜ、ず、や。

汽、車、汽、船、電、車、等、の、交、通、機、關、博、物、館、圖、書、館、等、の、公、共、營、  
 造、物、に、在、り、て、は、敏、速、と、規、律、と、を、尊、ぶ、も、の、な、れ、ば、之、に、  
 必、要、な、る、諸、種、の、規、則、あ、り。若、し、公、衆、の、間、に、規、則、を、守、り、

乏

籍

宗

兄弟

劣

規律を重んずる心乏しき時は是等文明の利器も其の運用を全くすること能はず。英國にては停車場に手荷物を預くるに合札を要せず、旅客は下車驛にて各自に荷物を受取るに、間違の起ること殆ど無し。又獨逸にては圖書館の書籍を借受くるに一枚の葉書にて申し込めば直ちに送り來る。之を返すにも其の期日を違ふる者絶えてなしといふ。我等の學ぶべき事ならずや。外國人に接するに人種宗教風俗の如何を問はず、いはゆる四海兄弟の精神を以て等しく之を親愛するは大國民の度量なり。國力我に劣れる國民を見て、やゝもす

侮

止  
詳

れば輕侮の念を以て之を迎へ、甚だしきは之と交るを喜ばざるが如きは、却つて我が國民の度量の狭く、品格の低きを示す所以にして、國交を傷つけ、隨つて國力の發展をさまたぐること多し。他國に行きて、其の市街建築物等の狀況、汽車電車中に於ける乗客の舉止、道行く人の容儀等を見れば、未だ其の國情を詳にせず、其の國人と一語を交へずして、早くも其の國民の品格の知らるゝものなり。我等幾千萬の同胞は常に大帝國の國民たるを思ひ、一言一行の間にも、大國民の品格を高むるの用意あるべきなり。

第二十五課 自治の精神

級 簡

我が國の地方自治團體は、府縣市の二級或は府縣郡町村の三級に分れたり。其の土地に廣狹の差あり、其の組織に繁簡の別ありといへども、地方自治の精神に基づきて、其の團體の幸福を進め、國運の發展を期するは一なり。

何をか自治の精神といふ。地方人民協同一致して、自ら地方公共の事に任じ、誠意其の團體の爲に力を致すの精神是なり。此の精神は實に自治制の根本にして、又其の生命なり。一般人民の府縣郡市町村會議員を選舉す

誘

るも、府縣郡市會に於て參事會員を選舉するも、市町村會に於て市町村長を選舉するも、一に此の精神に基づくべく、市町村長參事會員等の其の事務を處理するも、議員の經費を議するも、亦常に此の公平なる精神を以てすべし。

市町村長議員等を選挙するには専ら其の人物に重きを置き、親族縁故其の他私交上の關係をさしはさむべからず。まして威力を以て強制し、私利を以て勧誘する等の手段を用ひ、又は之に左右せらるゝが如きは自治の精神に反すること最も甚だし。眞に自治の精神に富

設 旨

める者は、公平無私、地方公職の爲の適任者を擧ぐるを  
知りて、其の他には何等の私心を有せざるなり。  
公吏議員等直接公共の事務に當る者如何に其の職務  
に忠實なるも、一般人民の之を助くるなくんば、自治團  
體の圓滿なる發達は得て望むべからず。故に人々常に  
自治制の本旨を體し、協同一致して團體の福利を増進  
せんことを心掛くべし。例へば教育衛生等自治團體の  
事業は、地方人民の一般に之を尊重し、之に協力するに  
よりて、始めて其の効果を全うすることを得べきなり。  
又産業組合を設け、慈善事業を起し、若しくは青年會を

第十二

凡

組織して、産業の發達、風俗の改善、人心の作興に務むる  
が如きは、皆公共心の發動にして、自治の精神の養成に  
資し、自治團體を助長すべきを以て、地方人民たる者は  
大いに力を是等の事業に盡すべきなり。  
凡て制度の運用は人にあり。自治制の如き最良の制度  
も、人民に自治の精神乏しき時は、いづくんぞ其の美果  
を收むるを得んや。

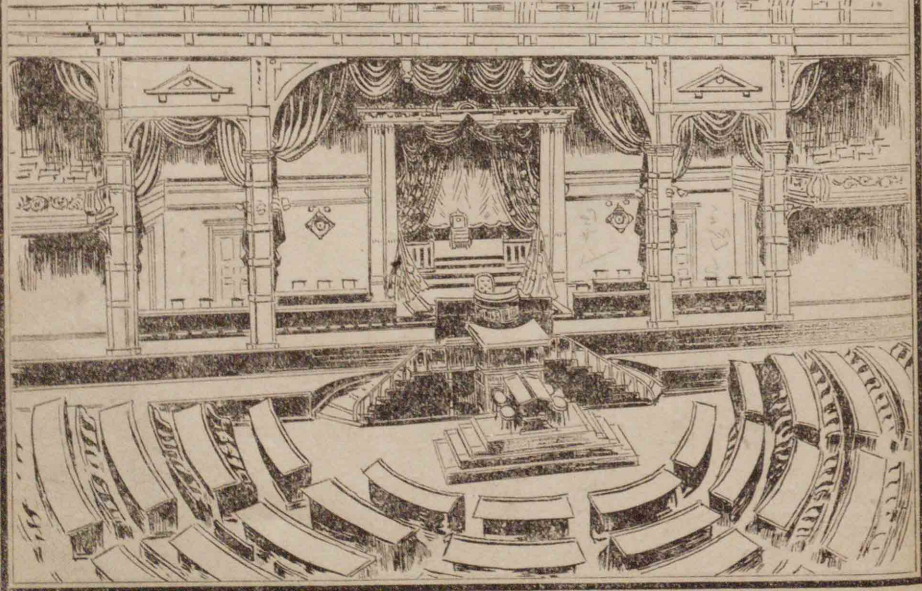
第二十六課 帝國議會

我が國は萬世一系の天皇之を統治し、天皇は國務大臣  
の輔弼によりて一切の政務を親裁し給ふ。しかして萬

輔弼

機公論に決するの聖旨に基つき、明治二十三年帝國議會を設けて、廣く衆議を聽くの機關に供し給へり。帝國議會は貴族院衆議院の兩院より成る。貴族院は五種の議員を以て之を組織す。皇族、公侯爵、同爵の互選せる伯子男爵、國家に勲勞あり又は學識あるものより勅任せられたるもの及び各府縣に於て多額の直接國稅を納むるもの十五人の中より一人を互選し、其の選に當りて勅任せられたるもの是なり。第三種第五種の議員の任期は七箇年とし、其の他は終身とす。衆議院は一定の選舉資格を有する臣民の公選したる議員を以て

組織し、議員の任期は四箇年なり。帝國議會の主要なる任務は法律及び歳出歳入の豫算を議定するにあり。豫算案は政府之を提出し、法律案は政府の外、貴族院衆議院共に各之を提出するを得。しかして、法律及び豫算は帝國議會の協賛を経たる後、天皇の裁可を





獨 請 述

待ちて始めて成立するものとす。若し兩院の決議一致せざるときは、帝國議會の協賛にあらず。兩院の決議一致すとも、天皇の裁可を経ざれば、其の効力を生ぜざるなり。

又貴族院及び衆議院は各獨立して上奏し、建議し、且臣民の請願を受くるの權能を與へられたり。上奏とは文書を天皇に奉呈し、建議とは文書を政府に提出して意見を述ぶるをいふ。上奏といひ、建議といひ、請願といひ、其の手續に於て各相異なりといへども、要は下情上達の道を開かせ給ふ聖慮に外ならず。

衰 諭 忽

帝國議會の協賛は國家の盛衰國民の安危に重大なる關係を及すものなれば、議員たる者は至誠奉公の赤心を以て忠實に其の職責を盡すべく、一般選舉人も亦公平無私の精神を以て參政の公職に最も適任なる人物を選出せざるべからず。

第二十七課 軍人に賜はりたる勅諭

天皇陛下を大元帥と仰ぎ奉り、國民皆兵なる今の大御代、國民たる者は皆軍人たる心得なかるべからず。明治十五年軍人に下し給へる勅諭こそ一般國民の寸時も忽にすべからざるものなれ。今謹みて其の大意を述べ

ん。

勅諭は先づ我が國の軍隊が古來天皇の統率し給ふ所なることを諭し給ひ、其の後時世の移り變るに連れて、兵制にも變遷あること、明治の大御代に及びて、復古の政と共に陸海軍の今の制度を定め給へる由來を詳に御諭しあり、かしこくも

朕は汝等軍人の大元帥なるぞ。されば朕は汝等を股肱と頼み、汝等は朕を頭首と仰ぎて、ぞ其の親は特に深かるべき。

とのたまへり。さて軍人の心得として次の五箇條を諭

し給へり。

一には、軍人としては忠節を盡すを本分と爲すべし。如何程技藝に通じ、學術に長ずとも、一片忠節の心なからんには、其の人や全く精神なき人形のみ。此の如き人の組織せる軍隊は即ち烏合の衆に同じ。國家を護り、國權を維持するは兵力に頼るを以て、軍人たる者は一途に忠節を重んじ、國家の大事に際しては、身命をすつること、鴻毛よりも輕き覺悟なかるべからず。平生より此の覺悟なきものは、時に臨みて或は不覺の名を取ることあらんと戒め給ふ。

勤 缺 | 尚 血 粗

一には、軍人は禮儀を正しくすべし。上元帥より下一卒に至るまで、官職の高低、就職の新舊によりて上下の分別最も正し。故に下級の者の上官の命を承くるや、直ちに陛下の命令なりと思ふべく、上官の者は常に下級の人をいたはりて、いさゝかも輕侮の念を有すべからず。下は上を敬し、上は下をあはれみ、一致協同して王事に勤むべし。禮儀を守る心得を缺ける軍人は國家としても許し難き罪人ぞと諭し給ふ。

己 訓

逆

ものは小勇の人にして、真正の軍人にあらず。能く義理をわきまへ、精神を修養し、小敵を侮らず、大敵を恐れず、十分に自己の職務を盡す人を眞の大勇の人といふべしと訓へ給ふ。

一には、軍人は信義を重んずべし。信とは我が言を行ひ、義とは我が分を盡すをいふ。故に十分に信義を盡さんと思はば、豫め能く事の成否を察し、成し得べからざるものは引受くべからず。初より事の順逆、理非を熟考して、小さき信義を立てんが爲に大いなる順逆を誤り、又は公道の理非に踏迷ふが如きこと有るべからずと諭

し給ふ。

一には、軍人は質素を旨とすべし。質素を旨とせざれば、いつしか文弱に流れ、輕浮の風にそみ、心も無下に賤しくなりて、節操も武勇も忘れ果てて、世人の爪弾を受くるに至るべし。此の風一度、軍人の間に起りては、士氣も兵氣も衰ふべければ、ゆめ此の訓を忘るなと、ねんごろに戒め給ふ。

以上の五箇條即ち忠節禮儀武勇信義質素の五箇條を特に軍人の精神と諭し給へる上に、此の五箇條を行はんには一の誠心こそ大切なれと仰せ給へり。心誠なら

裝飾

ざれば、如何なる言行も表面の裝飾に過ぎざれば、何の用にか立たん。此の五箇條を行ふも、結局一の誠心を本とすと諭し給へる、返すぐも服膺すべき大御言ならずや。

此の勅諭は特に軍人に賜へるものなれども、獨り軍人としての心得なりと思ふべからず。太古以來忠節の心にあつきは、我が國民の世界に無比なる美德にして、古來の歴史上の事蹟は十分に之を證明せり。禮儀も亦單に軍隊の間に行はるゝに非ずして、此の心得なくして如何でか日常の社會に立たんや。武勇の精神も亦國民

が古來のほこりとなす所なり。

海行かば水づくかばね、山行かば草蒸すかばね、大君の邊にこそ死なめ、顧みはせじ。

といふ忠勇の精神は我等が祖先の教訓なり。我等豈一  
日も之を忘れんや。信義は人と交り世に處するに於て  
最も大切なる事にして、商工業の人としても常に之を  
重んぜざるべからず。平常質素を旨とすべきは修身處  
世の上に於て何人にも最も大切なること言を待たず。  
誠の一字之を貫くは、あらゆる修身の徳を一言にて盡  
し給へるものといふべし。

此の五箇條は即ち皆我等が平常に之を身に行ふべき  
ものにして、軍人として始めて守るべき事に非ず。され  
ば「此の五箇條は天地の公道、人倫の常經なり。行ひ易く、  
守り易し」と諭し給へるなり。我等は修身書に於て、歴史  
に於て、讀本に於て、既に祖先の事蹟を學び得たること  
多し。常に之を忘れず、之を模範として、唯一の誠心を以  
て報國盡忠の道にいそしまんとす。是即ち我等の覺悟  
なり。

第二十八課 國民の至情

明治四十五年七月二十日、天皇御病あつしとの報には

かに傳はりぬ。日頃極めて御健かにましましてしに、いか  
でさる事あらんと思へども、次の日も又其の次の日も  
御氣色よろしからぬ由聞えて、國民の心は刻々に安か  
らず。

一日に二回又は三回、宮内省より公示せらる、御容體  
書を待ちわびて、御熱少しく下れりと言へば、人々喜の  
色を面にた、へ、御脈少しく平ならずと言へば、ひと  
しく憂の眉をひそむ。古今に例なき大帝、東西に比類お  
はせぬ聖皇のかばかりの病に負けさせ給はんやとは、  
誰もく深く信じながら、心も心ならず、何事も手に附

かぬさまなり。

二十七日の朝、少しく御安靜の體にあらせらる、由に  
て、喜び合へるかひもなく、其のあくる日よりは一しほ  
重らせ給へりと承るに、六千萬の國民は生きてる心地  
もせず。

津々浦々の末に至るまで、老いも若きも、ひたすらに大  
君を思ひ奉る真心より、夜となく晝となく、祈らぬ神佛  
もなく、立てぬ願もなし。まして二重橋外には土にひれ  
ふし、砂にぬかづきて、御平癒を祈り奉るもの、さしもの  
廣場にみちく、てゆ、しき有様たとへんに物なし。

祈 歎 卽

國民の至誠をこめたる祈願も其の効なく、明治の大帝は月の三十日遂に神去り給ひぬ。六千萬の國民は、天を仰ぎて泣き、地にふして歎けり。

天皇の國家多事の日、卽位し給ひ、つとに國是を一定して、維新の大業を成し給ひ、在位四十六年、國光を世界にかゞやかし給へるは、内外人のともに仰ぎ奉る所なり。いや増しに榮え行く御治世を千代八千代とこそ歌ひつれ、今にはかに崩御あらせられんとは誰かは思ひかけたりし。

長 在

し教育勅語<sup>ぼしん</sup>戊申詔書<sup>ぼしん</sup>軍人勅諭は國民の教訓として長へに傳はれり。之を拜讀する毎に、大帝は尙在すが如く覺ゆ。常に此の御訓を忘れず、いよく今上陛下に忠勤を勵まんこそ我等國民の務なるべけれ。

尋常小學讀本卷十二 終

大正二年四月八日 翻刻印刷  
大正二年四月廿一日 翻刻發行

尋常小學讀本卷十二

定價金十錢

著作權所有

著作兼  
發行

文部省

翻刻  
發行

東京市日本橋區新右衛門町十七番地  
日本書籍株式會社

代表者 大橋新太郎

印刷者

東京市小石川區久堅町百。八番地  
愛敬利世

印刷所

東京市小石川區久堅町百。八番地  
博文館印刷所

大正二年四月十日  
文部省檢査濟

發賣所

東京市日本橋區新右衛門町十六番地  
株式會社  
國定教科書共同販賣所



広島大学図書

2000018173

